

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

| | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|--------|-------|---|-------|-----|---|
| 学校番号 | 13 | 学校名 | 白根高等学校 | 全・定・通 | 全 | 在籍生徒数 | 370 | 名 |
| スクールポリシー (学力に関するもの) | 主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進 ○主体的・対話的で深い学びを重視した授業研究等に組織的・計画的に取り組み、自ら学ぶ姿勢を育てる ○地域やグローバルな社会で生き抜くために必要な知識・技能を定着させるため、家庭学習を推進する ○言語活動やICT機器の活用を推進する | | | | | | | |
| グラデュエーション ポリシー | ○将来、地域社会で貢献するための基礎となる学力と人間性を育てる ○自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる力を育成する ○自らの進路実現に向け、主体的に取り組む力を育成する ○自ら課題を見だし、他者と協働して課題を解決する力を育成する ○地域社会と連携を図り、体験活動を通して社会の一員として生き抜く力を育成する | | | | | | | |

| 生徒主体の授業への転換のための取組テーマ | |
|----------------------|-------------------------------------|
| ○ | 自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり |
| ○ | 目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出 |
| ○ | 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善 |
| ○ | ICTの利活用による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 |
| ○ | 文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組 |

| 具体的な取組 | |
|--------|--|
| ○ | 管理職による授業観察を行う同時期に教員同士の相互授業参観を実施することで、建設的なフィードバックを提供する機会をつくとともに、他の教員の授業中の生徒の様子を観察したり、新しい指導法について考える契機とする。また、教科会議開催時や教科担当指導主事訪問時等を活用し、指導と評価の一体化について検討する機会を設定する。 |
| ○ | これから先の未来を主体的に生き抜くために必要な知識・技能を定着させるために家庭学習の確保に努め、基礎学力の定着を図る。そのため、家庭学習と連動させた授業展開の工夫や改善について授業で実践し、家庭学習を含めたカリキュラムマネジメントのあり方を各教科で検討する。 |
| ○ | BYODを用いて互いの考えを視覚的に共有することにより、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となるような授業を検討し、実践する。 |

| 「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%) (各校の授業アンケートに基づく) | R7中間 | R7末 |
|--|-------|-------|
| 1. 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う、②そう思う) | 85.2% | 89.3% |
| 2. 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う、②そう思う) | 66.7% | 76.3% |
| 3. 授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う、②そう思う) | 79.6% | 88.3% |
| 4. 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う、②そう思う) | 66.1% | 80.0% |
| 5. 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う、②そう思う) | 73.8% | 83.8% |
| 6. 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う、②そう思う) | 85.2% | 89.3% |
| 7. 授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う、②そう思う) | 88.1% | 89.4% |
| 8. 他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う、②そう思う) | 87.4% | 91.1% |
| 9. 学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う、②そう思う) | 90.1% | 95.2% |

| 総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む) | |
|------------------------------|---|
| ○ | 生徒主体の授業づくりを学校全体で実践するため、相互授業参観を年2回実施したほか、各教科の研究授業実施時にも参観を呼びかけた。次年度も継続し、自分事として参観することで授業改善を考える契機としたい。また、管理職による授業観察から、1コマ1コマの授業で教科担当が工夫している様子がみられた。その成果が生徒や保護者からのアンケートで肯定的評価となっているので、次年度も継続していく。一方、家庭学習時間を見ると、授業理解を深めるための家庭での学習に取り組んでいる様子が課題がある。単元全体を通し、どのような資質・能力を身につけさせたいのかを再検討し、学校における授業と家庭学習が両輪となって基礎基本の定着に努めていきたい。 |
| ○ | ICT機器の活用ではアンケート結果を整理分析することで業務改善を進めた一方、模擬試験におけるICTの活用はこれからの課題である。分掌、学年、教科で模擬試験の在り方を再検討し、事前指導から事後指導にいたるまで計画的な取組を進めていきたい。また、基礎基本の定着に向け、ICT機器を活用する場面を増やしていくようにしたい。 |

| 各教科の取組 | | ※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。 | | |
|--------|---|---------------------------------|-------|---|
| 教科 | 生徒が身に付ける資質・能力 | 中間評価 | 年度末評価 | 課題解決のための次年度の取組 |
| 国語 | 地域社会で貢献するための基礎となる国語についての知識や情報の扱い方を身に付け、場面に応じて適切に使うことができるようにする。 | 3.9 | 4.1 | 地域や社会に関する文章や資料を読む際、必要な情報を取捨選択したり、情報の信頼性を判断したりする力が十分に身に付いていないため、目的に応じて国語の知識を活用する学習の充実が課題である。 |
| | 自ら考えて課題を見出し、他者と協働して解決するため、自分の考えを論理的にまとめ、それを他者に伝える思考力や表現力、他者の考えを理解し共感できる、想像力及び、状況をまとめ判断する力を育む。 様々な人との交流の中で、言葉づかいや言葉の味わいなどの感覚を高め、古典文学を通して言語文化に親しむなどして、自身の国語力を向上させようとする態度を養う。 | 3.9 | 4.0 | 話し合いや意見交流の場面で、自分の考えを根拠とともに整理して伝えたり、他者の意見を踏まえて考えを修正・発展させたりすることに課題が見られるため、協働的な思考・表現の経験を積ませる必要がある。 |
| 地公 | 歴史、文化、政治、経済、国際社会などにおけるさまざまな問題を、多様な角度から理解し、現代社会に生きる人間として主体的に考察し、公正に判断する力を身につけることを目指す。 | 4.0 | 4.0 | 語句や表現の味わいに着目して読む姿勢や、古典文学を自分の言葉や考えと結び付けて捉えようとする態度が十分とはいえないため、言語文化への関心を高め、主体的に学ぶ態度を育成することが課題である。 |
| | 歴史、文化、政治、経済などを、世界の各地域における問題・課題を多角的・多面的視点で考察する力を高め、発表やグループ活動で表現する力を育てる。 | 4.2 | 4.3 | 深い学びに繋げるための基礎となる知識を十分に定着させることができていない。次年度に向けて生徒の学力向上につながるよう、さまざまな工夫をしていく。 |
| | 史実や地理を主体的に考察し、現代社会における課題を解決しようとする力を育み、他者の歴史・文化などを理解し、尊重する態度を養う。 | 4.2 | 4.3 | ICTを積極的に活用したことで、発表やグループ活動で表現する機会を多く設けることができ表現力の高まりを感じることができた。基礎となる知識を定着させ、より活発な活動に繋げていく。 |
| 数学 | 数学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。 | 3.8 | 3.9 | 資料を活用し、社会課題に対する興味・関心を高めることができた。国内外の近現代史にさらに興味・関心が湧くような内容を授業で取り上げ、知識を習得する意味を考えさせることができる機会も設けていきたい。 |
| | 事象を論理的に考察し表現する力、事象の解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力をPCでの発表やグループ活動等他者との協働できる。 | 4.1 | 4.2 | ICT機器を活用して、グラフや図形などイメージを持たせて問題に取り組むことを心掛ける。また、それを用いて説明の時間を短縮するなど、演習の時間をできるだけ多く取り、表現・処理能力を高めていきたい。 |
| | 数学のよさを認識し、活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性が身に付いている。 | 4.0 | 4.1 | 今年度は、ICTを活用した授業や積極的にグループ学習等ができた。次年度は教え合いやBYOD活用を中心としたグループ学習をさらに積極的に行うことで課題解決を図りたい。 |
| 理科 | 自然の事物・現象についての理解を深め科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能が身に付いている。 | 4.1 | 4.2 | 授業において、日常生活の中での数学の有用性を具体例を用いて説明し、数学に興味関心を持たせるなど、限られた場面ではあると思うが、数学的な思考などを生かせるような指導をする。 |
| | 観察・実験などを行い、グループ活動を通して他者との協働性や科学的に探究する力が身に付いている。 | 3.9 | 4.1 | 実験・観察を実施し、基本的な実験・観察の技能が身に付いた。今後はその結果に対する考察をし、その現象や事象、法則に対する理解を深めていきたい。 |
| | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度や科学に関する興味・関心を持っている。 | 3.9 | 4.0 | 実験・観察を通して、他者との協働性を身に付けることができた。次年度はグループで実験結果や考察を話し合う時間を多く持ち、対話的で深い学びができるように指導をしていく。 |
| 英語 | 話の展開に注意しながら必要な情報を捉え、多様な語句や文を用いて論理的に自己発信するための知識及び4技能を習得している。 | 3.8 | 4.0 | 身の回りの自然現象や科学的ニュースなどを授業の中で取り上げ、調べ学習などを実施し興味や関心を持つことはできた。次年度はその現象や事象と原理を関連付けて考えることができるように指導していく。 |
| | 相手の意図を的確に把握したり、目的や場面、状況に応じて習得したことを効果的に活用して表現しコミュニケーションを図ることができている。 | 3.9 | 4.1 | 基礎となる語彙や表現が不十分であり、表現の幅が狭いように感じる。例文などを用いて表現の力をつけていくことが重要である。 |
| | 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、社会的な話題について積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。 | 3.9 | 4.1 | スピーキング活動を取り入れ、やり取りにおけるコミュニケーションのよいトレーニングとなった。会話において、より使える表現や考えを伝える方法を教えていくことが必要である。 |
| 芸術 | 共通事項(造形要素とその働き等)の学習を通し、それらの特徴を全体のイメージや作風、様式などで捉え、自分の個性を生かし、意図に応じて表現している。 | 4.1 | 4.2 | ALTとの交流を楽しみ、異文化に興味を持ち理解しようとする態度が見られた。より自信をもって表現することができるよう、語彙や表現力を身につけていく必要がある。 |
| | 創造活動、対話による鑑賞活動、作品のプレゼン(演奏)を通し、自己の価値観を働かせて芸術的な見方、感じ方を深めている。 | 4.2 | 4.4 | 豊かな鑑賞活動の中で、感じたことを言葉にする活動が、自分の主題を見つけることや、各自の制作のヒントとなるよう促していきたい。 |
| | 作品制作、演奏活動に主体的に取り組んでいる。また、生活や社会の中の芸術や芸術文化に対し興味関心を持ち、心豊かに創造している。 | 4.2 | 4.4 | 制作の途中にもお互いの作品について話し合うグループ活動を行い、自分の作品を改善する活動を今後積極的に取り入れたい。 |
| 家庭 | 生活を主体的に営むために必要な衣食住、保育、高齢者の生活などについて理解するとともに、それらに係る技能が身に付いている。 | 4.1 | 4.3 | 技術面の向上に加え、鑑賞活動を通じて、アートの思考を育んだり、芸術と社会との関係に関する教材を開発したりすることで、興味関心を喚起したい。 |
| | 衣食住、保育、高齢者に関する社会的課題を見出し、その解決に向けて考察したことを論理的に表現することができた。 | 4.1 | 4.2 | 各単元で学んだ知識・技能を総合して実生活に活かせるような指導の工夫を進めていきたい。そのために、単元を横断しての振り返りや実生活とのつながりを考えさせる機会を増やしていきたい。 |
| | 学んだ内容を活かして他者と協働し、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が身に付いている。 | 4.0 | 4.1 | 家庭や社会に関する課題の把握、解決策の構想の為に、ICTの効果的な活用を進めていきたい。個人やグループでの発表の機会を増やし、論理的にまとめ表現する能力を身につけさせていきたい。 |
| 保体 | 健康の保持増進の仕方、体力の高め方などの基本的な知識を身に付け、実生活で実践できるように技能を習得し活用できる。 | 4.0 | 4.1 | 実習では協働して作業を進め、より良いものを作ろうとする態度の向上が見られた。今後は、学んだ内容を自分や家族の生活に活用できたかを評価・改善し実践力を向上させる指導をしていきたい。 |
| | 健康や運動について自他の課題を見つけ、他者と協働して課題の解決に向け思考し判断することができる。その結果を他者に的確に伝えることができる。 | 4.2 | 4.3 | 健康の保持増進についての方法や体力の高め方など基本的な知識を身に付けることはできたが、それを生徒自身の生活の中で実践できるようにしていく必要がある。 |
| | 主体的に運動に取り組む、何事にも粘り強く取り組む力を身に付け、実生活で実践できる | 4.2 | 4.2 | グループワークなど仲間と協同する活動を多く取り入れ、意見交換やコミュニケーションがとれる場を増やし、他者に伝える力の向上に努めていきたい。 |
| 情報 | 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解している。 | 4.3 | 4.4 | 運動の好き嫌いではなく、どんな生徒でも主体的に運動に取り組めるように活動内容や指導方法を工夫していく必要がある。 |
| | 事象を情報とその結びつきの視点からとらえ、問題の発見、解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | 4.1 | 4.3 | コンピュータやデータ活用を、演習中心から課題解決型学習へと発展させ、グループ協働による情報分析・発表活動を充実させる。また、情報社会における倫理的判断力を育成するための討論活動を取り入れる。 |
| | 情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 | 4.1 | 4.3 | 情報とその結びつきを多面的に分析する力を高めるため、実社会の課題を扱った探究的な学習活動を充実させる。情報の収集・整理・分析・表現までを一連のプロセスとして扱い、より高度な問題解決能力の育成を図る。 |
| 総探 | 自らのキャリア形成に必要な知識や情報を整理・分析した結果をまとめ、表現することができる。また、自らの意見を効果的に他者に伝えることができる。 | 4.1 | 4.3 | 情報社会との関わりをより具体的な社会課題と結び付け、地域や実社会を題材とした探究的学習を充実させる。また、課題解決の過程を振り返り、他者と共有する活動を取り入れることで、主体的な改善力の向上を図る。 |
| | 自ら課題を見出し、他者と協働しながら課題をより良く解決するために多角的な視点から調整をしたり、効果的な自己発信したりすることができる。 | 4.3 | 4.1 | 外部講師による講義や体験学習の事前・事後の学習を充実させ、自身の学習状況やキャリア形成過程と結びつけて考える時間を十分に確保する。 |
| | 自己の在り方・生き方を考えながら、社会や世界と積極的に関わり、人生を豊かにするために生涯学び続ける姿勢が身に付いている。 | 4.2 | 4.1 | 地域や未来の課題を自分自身の進路と関連づけて考えると、課題解決に向けた協働的な学びを充実させる。 |
| | | 4.2 | 4.1 | 志望理由書作成において、社会や世界に目を向けて収集した自己に関わる情報を整理し、キャリア形成過程の見直しを持たせる。 |